

令和3年度第1回静岡県都市公園懇話会 記録(主な意見、質問)

内容	第1回静岡県都市公園懇話会
日時	令和4年3月28日(月)午後3時～4時30分
場所	県庁別館第2会議室
出席者	都市公園懇話会委員(別紙委員名簿参照)、都市局長、公園緑地課長 都市公園管理班長、事務局

<概要>

- ・令和3年度県営都市公園外部評価について、外部評価委員会から評価結果が示された。
- ・遠州灘海浜公園(篠原地区)について、事務局から概要を報告し、質疑応答等を行った。

1 議題(1) 令和3年度県営都市公園外部評価結果について

<外部評価委員長からの報告概要>

黒田委員：年度当初は新型コロナウイルス感染症が落ち着きを見せたものの、夏場や年明けにまん延防止等重点措置や緊急事態宣言発令の影響があり、利用者数の回復は伸び悩んだ。そうした中で施設の整備やマニュアル作り・広報活動など運営面での取り組みはなされている。コロナ禍の中で、大人数のイベントなどは難しいが、家族連れなどの日常利用は堅調である。高齢者向けのイベントや、園内施設の観察会などの新しいイベントの実施に向けても着実に進んでいる。施設の老朽化が多く公園で見られ、またトイレの洋式化や姿勢鏡など社会情勢の変化による需要も生じている。交通アクセスの課題等もあり、指定管理者個々では解決できないものもある。公園緑地課や地域も含めての課題として今後検討いただきたい。

<質疑等(→は事務局からの回答)>

井口委員：愛鷹広域公園は指定管理者が変わったが、指定管理1年目でどのような取り組みがあったか。

清水委員：スポーツに強みのあるミズノに指定管理者が変わり、スポーツイベントの充実が期待されたが、コロナ禍の影響により思うように実施できず、暗中模索しているのが現状である。

園内のスポーツと自然とのバランスについては、継続して維持している。

今年になってからミズノの強みを活かした子供向けのクラブの募集も始まっており、オリンピックアスリートを呼ぶイベントの計画もある。こうした新たな方向性は期待できる。

大河内委員：防災時の避難地としての公園利用について、指定されていないから使えないという考えではなく、臨機応変に対応していく必要がある。

障害者スポーツアスリートの高齢化が目立つなか、障害者スポーツアスリートの育成や、利用しやすい環境作りを進めていかなければならない。

ユニバーサルデザインも全体を見てきちんと使えるように考えられていない事例が多い。本当の利用ができるような環境作りをしなければならない。
高齢者・障害者が運動を楽しめることが大事である。
星空観察会・スキーなど、子供達の夢を育む機会をつくれると良い。
地域連携の中に、地域の農家の産物を取り入れ、販売したりする仕組みもあって良いと思う。
→危機管理部やスポーツ・文化観光部といった関係部署・指定管理者・地域と連携して、できることを考えていきたい。

渡邊委員：吉田公園のチューリップ祭りを見に行った。マスク着用や検温について、なぜ公園でマスクを着けるのかと利用者から苦情をいただいたり、指定管理者が対応に苦勞されていた。公園ではどこまでの感染対策が求められるのか。
→マスクを外したい意見もある一方で、利用者からはマスクの着用の徹底など、より安全を求めめるご意見も多く寄せられている。利用者については感染対策の徹底をしたい。

井口委員：行政としてもマスクの着用等を県民の方に情報発信をしないとイケない。うまく指定管理者と連携して発信していただきたい。

久留戸委員：県の方から指定管理者には感染対策の規定が示されているか。

→県の危機管理部から規定が定められており、指定管理者に示している。

久留戸委員：県の規定として県民に発信されないと、指定管理者の方に苦情が寄せられてしまい、気の毒に感じた。

井口委員：公園でコロナ対策で困ったことや具体的な事例は聞いているか？

黒田委員：去年の経験もあり、通常取り組まれるべき対策などは浸透しており、個別に特に困ったという話は聞いていない。

岸本委員：指定管理者がコロナ対策を一生懸命やっている中で、利用者から感染対策に伴う不便について苦情が寄せられ、指定管理者が大変だと感じている。

大河内委員：小笠山運動公園の外部評価結果「F 収益向上への取組」の中で、伊藤忠商事の「か・け・ふ」が例としてあげられているが、収益性がなくとも求められるような事例も持つ公園の評価に、商社の例を取り上げることは適当であるか。

牛場委員：収益向上の機会に多面的に取り組んでいることを評価するにあたり商社の例を取り上げているため、収益一辺倒という趣旨ではなく、御指摘には当たらないと考える。

黒田委員：都市公園を運用するにあたり収支のバランスは求められる。そうした中で、収入を増やして支出に充てるという意味では、商社の例を取り上げるのは問題ないと考える。

大河内委員：そのような趣旨であれば問題ない。

大河内委員：神戸国際大学の教授が自然循環型の花壇作りについて提言しており、農家の花畑は費用や手間がかからず維持できるとのこと。こうした話を聞いてみるのも良い。

→公園ごとのニーズも聞きながら考えていきたい。

黒田委員：県外の先進的な情報などを各指定管理者に共有できると良い。講演会や視察会などの実施も必要になってくるであろう。

2 その他 遠州灘海浜公園（篠原地区）に係る報告事項

<事務局からの報告事項概要>

- ・遠州灘海浜公園（篠原地区）の基本計画の策定について、新型コロナウイルスの影響により、比較検討プラン原案の見直しを行った。
- ・アフターコロナへの対応等の情報収集を行った結果、施設の配置計画を変更している事例はなく、運用方法の変更などにより対応していることが分かり、公園の配置計画に関する比較検討プランは修正する必要はないという結論に至った。
- ・官民連携については、民間事業者 29 社と対話を実施し、本公園事業において官民連携の導入の可能性があることを確認した。
- ・令和 4 年度は、引き続き公園基本計画の策定に取り組み、官民連携事業導入に向けたサウンディング調査を進めていく。

<質疑等（→は事務局からの回答）>

久留戸委員：当該球場の整備は今ある浜松市営浜松球場の代わりということか。

→県営の球場は東部に愛鷹広域公園、中部に草薙総合運動場にあるが、西部にはない。西部は野球が盛んな地域でもある。そうしたことを受けて、西部に県営の球場を作ろうという趣旨である。

中西委員：多目的広場が「土」で整備するプランになっているが、浜松は風が強く、地域住民のところまで砂埃が舞う可能性もある。予算的に許されるのであれば、人工芝にするなど検討していただきたい。またチップが黒だと夏場に温度が上がってしまうので、オレンジや白のものを導入するなども考えていただきたい。

大河内委員：人工芝ではマイクロプラスチック問題もあるため、それも踏まえた検討もした方が良いでしょう。

井口委員：今はまだ大きなプランの段階で、具体的にはこれからということであろう。

→現在は「基本計画」を作っている段階。基本計画策定後の「基本設計」や「実施設計」の段階で、ご意見いただいた人工芝やマイクロプラスチック問題等について検討していく。